

独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業

# 生活保護は だれのため 助け合い、分かち合い の社会をめざして



## 生活保護費の見直しが 市民生活に及ぼすこと

稲田佳代さん

2005年、毎日新聞入社。横浜支局、さいたま支局、東京本社・生活報道部を経て、現在、社会部とうきょう支局に所属。生活報道部時代に以前から関心を持っていた福祉・社会保障などを担当。人気お笑い芸人の母親の生活保護受給騒動を受け、今年6～9月、生活保護の基本的な仕組みや制度改正の動きなどを伝える随時連載「生きられる社会へ～生活保護の今～」を執筆した。

コーディネーター：吉田和雄

## 【特別報告】新さんきゅうハウスの設立経過と現状

大沢ゆたか（NPO法人さんきゅうハウス理事、立川市議）

## 児童養護施設等を経た青年 たちが抱える問題と困難

高橋亜美さん

1973年生まれ。1997年、日本社会事業大学社会福祉学部卒業。2002年より社会福祉法人「子供の家」が運営する「自立援助ホームあすなる荘」で援助スタッフとして勤務。2011年、同法人が開所したアフターケア相談所「ゆずりは」の所長に就任。



日時 2012年11月23日（金/休日）13:30～16:30

場所 立川市民会館（アミューたちかわ）5F 第1会議室  
（JR立川駅南口下車徒歩7分）

参加費 無料

主催 特定非営利活動法人さんきゅうハウス  
〒190-0011 東京都立川市高松町2-19-1 大沢事務所内

連絡先 TEL: 080-5088-3897（吉田和雄）  
FAX: 042-525-8733 E-mail: saka22ponta@ezweb.ne.jp



# 生活保護はだれのため

## —助け合い、分かち合いの社会をめざして—

10月、大阪市で何人もの野宿者が「若者」に襲撃、暴行され一人が亡くなり、数人が重症を負いました。一部のマスコミ・政治家などの生活保護受給者へのバッシングも止まりません。

さんきゅうハウスは、立川市内で路上生活者などの生活困窮者に無料の食事提供、入浴サービスを続けて3年目をむかえます。私たちの事業は生活に困った人、金もなく体が弱っている人たちに最低限度の食事を提供し、お風呂に入

ってさっぱりしてもらうこと、医療の必要な人には治療・入院などしてもらうことなどです。

仕事がなく収入が途絶え住居を追い出された人たち、路上生活で身体も心も傷めた人たちには、生活保護を受給してもらえよう申請に同行したりもします。最近では、女性の生活困窮者が何人も路上生活で苦悩されているのを目のあたりにして対応しています。さんきゅうハウスの利用者も減ることはありません。

政府・厚労省は「生活保護制度の見直し」で給付を抑制し、来年度予算で保護費を削減することを年内にも決定しようとしています。

自民党にいたっては生活保護費の10パーセント削減を提言しています。

一方で、震災復興とは関係のない地方の道路や官庁の建物、原発より危険で実用化の目処もたない核燃サイクルの「研究」に多額の税金が使われています。

## ❗ 生活保護費の削減は何をもたらすか ❗

「生活保護制度の見直し」で受給者の命と人権は守られるのでしょうか。生活保護費の削減で生活に困るのは当事者だけでしょうか。就学援助の必要な子ども・貧困家

庭や一人暮らしの年金生活者、非正規雇用で働く人などにはどのような影響が及ぶのでしょうか。

シンポジウムでは、生活保護制

度の見直しと保護費の削減により、受給者の生活や市民生活にどのような影響が及ぶのか考えます。

ぜひ、ご参加下さい。

## ❗ 賛同のお願い ❗

NPO法人さんきゅうハウス第2回シンポジウムに賛同をお寄せください。ご賛同いただける場合には、FAXかメールでご連絡ください。

FAX: 042-525-8733 E-mail: kyoko6208@aol.com

賛同金振込：ゆうちょ銀行  
振替口座 00190-2-306646  
加入者名 さんきゅうハウス

## NPO法人さんきゅうハウス第2回シンポジウムに賛同します

お名前 (お名前の公表 可 ・ 不可 )

肩書き

ご住所 〒

電 話 E-mail

賛同金 口 (個人：1000円/1口・団体：3000円/1口)

よろしかったらメッセージをお寄せください